

福岡市総合図書館映像ホール

シネラ

Fukuoka City Public Library Movie Hall

Ciné-là

シネラ・ニュース  
February 2008 No.79

収蔵映画特集

# インド映画特集

収蔵映画特集

# マレーシア映画特集

# 2

『シャンカラパラナム』  
イラスト:花野孝史



## 収蔵映画特集

70年代から現代まで、図書館収蔵のインド映画の傑作特集

# インド映画特集

今回上映する作品はすべて総合図書館の収蔵作品です。インドは世界最大の映画国です。歌や踊りに溢れた娯楽作品がその中心を占めていますが、今回のセレクションでも「デュオ」「メロディ」「神の与えしもの」「シャンカラバラナム」では、インドの歌をふんだんに聴くことが出来ます。特に「デュオ」や「シャンカラバラナム」のように単なる娯楽にとどまらないレベルの高い作品が存在することが、映画大国インドの特徴といつてよいでしょう。

また社会派の作品として「テロリスト」「バンディット・クイーン」「占拠」などの作品をリストアップしました。これらは国際的にも高い評価を獲得した作品ばかりであり、インド映画の芸術性の高さを認識できることでしょう。



会 期：19日(水)～3月2日(日) ※休館日・休映日除く

観覧料：500円(大人) 400円(大学生・高校生)  
300円(中学生・小学生)

※定員制。各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

19日(水)14:00  
23日(日)15:00

## シャンカラバラナム

Sankarabharanam  
監督：K. ヴィシュワナート  
出演：J.V.ソーマヤージュル  
マンジュ・パールガヴィ



娯婦のトゥルシと高名な声楽家シャンカラ・シヤーストリの愛の物語。シャンカラの歌うインド古典音楽とそれに併せてトゥルシが踊る様は、観客をインドウー教の神話の世界に誘い、インド古典舞踊の神髄を見せてくれる作品である。シャンカラの声を吹き替えるパールプラニームは南インド映画音楽の第一人者として有名である。

(日本語字幕付き)  
1979年◇35ミリ◇カラー◇145分◇インド

20日(木)18:30  
3月2日(日)15:00

## モノローグ

Monologue



監督：アドゥール・ゴバーラクリシュナン  
出演：アショーカン/ショーバナ

1987年◇35ミリ◇カラー◇126分◇インド

主人公のアジャヤンは、生まれてすぐに棄てられ、病院の医者によって育てられる。成長したアジャヤンは人並みはずれた才能を発揮するが、みんなに疎まれ、自分の殻に閉じこもってしまう。物語はアジャヤンの回想形式で進行し、幻想と現実の中を漂うようなアジャヤンの心の中の物語が描かれる。

(日本語・英語字幕付き)

22日(土)11:00  
27日(木)18:30

## メロディ

Melody

監督：サイー・バラランジペー  
出演：シャバーナー・アズミー  
アルナ・イラニー



マンシイは映画の吹き替え歌手として成功する。一方妹のパンシイも一度は結婚するが、やがて姉と同じ吹き替え歌手として成功する。40年代に実在し、映画の80%は彼女たちの吹き替えと言われた姉妹の物語。インド歌謡がふんだんに詰め込まれた女性映画で、シャバーナー・アズミーの気品に満ちた演技が魅力的である。

(日本語・英語字幕付き)  
1997年◇35ミリ◇カラー◇154分◇インド

19日(水)18:30  
27日(木)14:00

## おとぎ話

Bhavni Bhavai



監督：ケータン・メーヘター  
出演：ナスィールッディーン・シャースミター・パーティル

1980年◇35ミリ◇カラー◇124分◇インド

昔々、二人の妃を持つチャクラセンという王がいた。王は子供に恵まれず、やっと生まれた王子はもう一人の妃の陰謀により不可触民の村で育てられる。この作品はインドの伝統的な民衆劇の形式を借りて、カースト制度を告発した作品で、ナント映画祭において、ユネスコクラブ人権賞を受賞している。

(日本語字幕付き)

21日(金)14:00  
3月2日(日)11:00

## 神の与えしもの

Creation

監督：T. ハリハラン  
出演：ヴィニートウ・アムルタ



歌手として有名になったハリードスが田舎に帰ってくる。村にはハリードスがかつて共に歌の修行をし、好意を寄せた女性タンガマリーがおり、彼女は夫の死により床に伏していた。歌がふんだんに織り込まれた楽しい作品で、インドでベストボビュラー映画賞を受賞している。シャージン・N・カルンによる撮影も美しい。

(日本語・英語字幕付き)  
1992年◇35ミリ◇カラー◇149分◇インド

22日(土)15:00  
26日(水)14:00

## ザ・デュオ

The Duo



監督：マニラトナム  
出演：モーハンラール  
ブラカシュ・ラージ

1997年◇35ミリ◇カラー◇166分◇インド

映画スターとして絶大な人気を博すアーナンダと、政治活動に熱心なセルヴァム。二人の友情を軸に、やがて二人が政敵として対立していくまでをマニラトナム独特の演出で描いた大作。ミス・ワールドに輝くアイシュワリヤー・ラーイの映画デビュー作であり、彼女の息をのむような美しさも本作の見所である。

(日本語・英語字幕付き)

20日(木)14:00  
3月1日(土)11:00

## 占拠

The Occupation

監督：ゴータム・ゴース  
出演：モモタ・ションコル  
ラビン・シェン・グブト



ベンガル地方のカクラマと呼ばれる狩猟部族を描いた作品。部族のリーダーのボゴンバルは荒地を開墾して畑にしようとするが、地主は土地を取り上げてしまう。裁判を起こすボゴンバルだが、訴えは退けられてしまう。インドにおける先住民族差別を描いて、82年インド映画祭で最優秀作品賞を受賞した作品。

(日本語字幕付き)  
1981年◇35ミリ◇カラー◇73分◇インド

21日(金)18:30  
3月1日(土)15:00

## バンディット・クイーン

Bandit Queen



監督：シェーカル・カプール  
出演：シーマー・ビシュワース  
ニルマル・バーンデー

1994年◇35ミリ◇カラー◇120分◇インド

「女盗賊ブルー」は日本でもベストセラーとなったが、この映画は本が書かれる以前に、本人が獄中で口述した日記をもとに脚本が作られている。インド中北部のチャンバル渓谷に住む盗賊達の実体が描かれており、カースト差別と女性差別という二重の差別をうけたブルーは、インドの貧しい人々に英雄として称えられた。

(日本語字幕付き)

23日(日)11:00  
26日(水)18:30

## テロリスト

The Terrorist

監督：サントーシュ・シヴァン  
出演：アイエーシャ・ダールカル



19才の少女マツリは反政府テロ組織の一員で、ある日組織から命令が下り、爆弾を体に巻き付け、政府要人を暗殺する任務に就く。果たして彼女は爆弾のスイッチを押すことができるのか。インドで実際に起こった爆弾テロを題材にしており、息を飲むような緊迫感が漂う作品。マツリの種という題で日本でもロードショー公開されている。

(日本語・英語字幕付き)  
1998年◇35ミリ◇カラー◇100分◇インド

## 収蔵映画特集

若い監督の台頭が見られ、新境地を開きつつある90年代のマレーシア映画を上映

# マレーシア映画特集

今回の特集で上映するマレーシア映画はすべて総合図書館で収蔵した作品です。90年代のマレーシア映画は若い監督の登場により、新たな展開を見せています。マレーシア映画で初めてカンヌ映画祭に正式招待されたウ＝エイ・ビン・ハジサアリ監督、女性らしい繊細なタッチのエルマ・ファティマ監督、そして若々しい感性を感じさせるヒッターカーのアズィズ・M・オスマン監督など、いずれも90年代にデビューした監督達です。単なる娯楽映画にとどまらない彼らの活躍はマレーシア映画の質的向上に大きく寄与しているといつて良いでしょう。コメディの「追いつ追われつ」、戦争映画の「アドナン中尉」、社会派の作品「放火犯」「ベールの人生」、マレーシアの歴史と文化を感じさせる「ラスト・マレー・ウーマン」「愛しのサルマ」など、バラエティに富んだ作品群をお楽しみ下さい。

会 期：5日(水)～16日(日) ※休館日・休映日除く  
観覧料：500円(大人) 400円(大学生・高校生)  
300円(中学生・小学生)

※定員制。各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の呈示が必要です。)

7日(金)18:30  
16日(日)15:00

### ラスト・マレー・ウーマン The Last Malay Woman



監督：エルマ・ファティマ  
出演：エイズラン・ユソフ  
ファニダ・イミラン

1997年◇35ミリ◇カラー◇117分◇マレーシア

ロンドン留学経験を持つ劇作家ハイカルの演劇は不入りであり、ハイカルはマレー人にとっての演劇は何かについて悩んでいた。休養のためリゾートホテルに滞在するハイカルは、そこで働く美しい女性ムスティカと出会う。マレー文化とは何かという問いが恋愛ドラマの中に描かれている。

(日本語・英語字幕付き)

6日(木)14:00/12日(水)18:30  
16日(日)11:00

### ジミ・アスマラ Jimi Asmara

監督：エルマ・ファティマ  
出演：ハニ・モフセン  
ラヒム・ラズリ



1950年代から60年代、独立当時のマレーシアを舞台にして、当時人気を博した歌手ジミ・アスマラの生涯を描いた作品。まだ植民地の雰囲気が残るマレーシアで、ジミ・アスマラと彼に恋する女性ウンク・イライニの許されざる恋が、女性監督らしい繊細なタッチで描かれる。

1994年◇35ミリ◇カラー◇105分◇マレーシア

8日(土)11:00/12日(水)14:00  
13日(木)18:30

### 追いつ追われつ Senario Again

監督：アズィズ・M・オスマン  
出演：アズリ・ジャーファル  
ヤシン・ヤーヤ



マレーシアで大人気の五人組グループ、シナリオを主役にした映画で、マレーシアの映画史上第二位という興行成績をあげた大ヒット作である。盗難車を追っての迫力あるカーチェイスシーンや、インド映画を思わせるダンスシーン、五人の思のあったギャグの連続にロマンチックな恋愛をからめるなど、徹底した娯楽作品となっている。

1999年◇35ミリ◇カラー◇120分◇マレーシア

6日(木)18:30  
9日(日)11:00

### 放火犯 The Arsonist



監督：ウ＝エイ・ビン・ハジサアリ  
出演：ハリット・サレ  
アジザ・マザン

ジャワ人としての誇りと伝統を重んじるカカンの一家は、様々な迫害に耐えながら暮らしていた。カカンの息子のクスマは父を尊敬していたが、カカンは差別に耐えかねて雇い主の納屋に放火をしてしまう。マレーシアにおけるジャワ人差別を描いた問題作で、初めてカンヌ映画祭に招待されたマレーシア映画。

(日本語・英語字幕付き)

1994年◇35ミリ◇カラー◇70分◇マレーシア

5日(水)14:00  
15日(土)11:00

### ベールの人生 Veil of Life

監督：シュハイミ・ババ  
出演：M. ナシール  
ディンナ・ユソフ



学生のマスストウラは戦争難民を救う活動に加わり、サルダール教授と共にパレスチナから子供供達を受け入れるキャンプを計画する。しかしキャンプ会場はテロリストの爆破にあい、マスストウラは怪我をしてしまう。表・現主義的な凝った映像で描かれており、マレーシア芸術派の台頭を知らしめた作品。

1992年◇35ミリ◇カラー◇106分◇マレーシア

8日(土)15:00  
14日(金)14:00

### アドナン中尉 Lieutenant Adnan



監督：アズィズ・M・オスマン  
出演：ハイリー・オスマン  
ウミ・アイダ

2000年◇35ミリ◇カラー◇133分◇マレーシア

イギリス植民地時代のマレーシア。幼い頃から飛び抜けて利発だったアドナンは軍隊に入り、異例の出世を遂げる。1941年12月、中尉として一小隊を任されたアドナンは、日本軍を相手に勇敢に戦うのだった。今なお高い人気を持つ現在の人物であるアドナン中尉の生涯を描いた作品で、第45回アジア太平洋映画祭で審査員特別賞を受賞。

(日本語・英語字幕付き)

7日(金)14:00/14日(金)18:30  
15日(土)15:00

### 愛しのサルマ Sayang Salmaha

監督：マハーディ・ムラー  
出演：アスハ・スライマン  
ファウズィア・ナウイ



1950年代、マレーシア独立前後を舞台として、ある家族の崩壊を描いた作品。独立運動を展開する父と長男の意見の対立、父の死そして長男の逮捕、次男の結婚から母の死と激動する時代の中で翻弄される家族の大河ドラマである。独立に対するマレーシア人の葛藤が描かれている点が非常に興味深い。

1995年◇35ミリ◇カラー◇123分◇マレーシア

5日(水)18:30  
9日(日)15:00  
13日(木)14:00

### 女、妻そして娼婦 Woman, Wife, and Whore



監督：ウ＝エイ・ビン・ハジサアリ  
出演：ソフィア・ジェーン  
ナシル・ピラン・カン

1993年◇35ミリ◇カラー◇118分◇マレーシア

結婚式の日に逃げ出したザレハは、婚約者のアミロに捕まって売春宿に売られてしまう。ところが機転を利かせたザレハは正式にアミロと結婚し、村に帰ってくる。そして自由奔放なザレハは平気で浮気をする。マレーシアを代表するハジサアリ監督のデビュー作で、公開とともに国内ではセンセーショナルな話題となった。

(日本語字幕付き)



1 土 休 映 日

2 日 自主上映「紅いコーリャン」

3 月 休 館 日

4 火 休 映 日

マ  
レ  
ー  
シ  
ア  
映  
画  
特  
集

|      |                   |                       |
|------|-------------------|-----------------------|
| 5 水  | 14:00<br>ペールの人生   | 18:30<br>女、妻そして娼婦     |
| 6 木  | 14:00<br>ジミ・アスマラ  | 18:30<br>放火犯          |
| 7 金  | 14:00<br>愛しのサルマ   | 18:30<br>ラスト・マレー・ウーマン |
| 8 土  | 11:00<br>追いつ追われつ  | 15:00<br>アドナン中尉       |
| 9 日  | 11:00<br>放火犯      | 15:00<br>女、妻そして娼婦     |
| 10 月 |                   | 休 館 日                 |
| 11 火 |                   | 休 映 日                 |
| 12 水 | 14:00<br>追いつ追われつ  | 18:30<br>ジミ・アスマラ      |
| 13 木 | 14:00<br>女、妻そして娼婦 | 18:30<br>追いつ追われつ      |
| 14 金 | 14:00<br>アドナン中尉   | 18:30<br>愛しのサルマ       |
| 15 土 | 11:00<br>ペールの人生   | 15:00<br>愛しのサルマ       |
| 16 日 | 11:00<br>ジミ・アスマラ  | 15:00<br>ラスト・マレー・ウーマン |

17 月 休 館 日

18 火 休 映 日

イ  
ン  
ド  
映  
画  
特  
集

|       |                    |                      |
|-------|--------------------|----------------------|
| 19 水  | 14:00<br>シャンカラバラナム | 18:30<br>おとぎ話        |
| 20 木  | 14:00<br>占 拠       | 18:30<br>モノローグ       |
| 21 金  | 14:00<br>神の与えしもの   | 18:30<br>パンティット・クイーン |
| 22 土  | 11:00<br>メロディ      | 15:00<br>ザ・デュオ       |
| 23 日  | 11:00<br>テロリスト     | 15:00<br>シャンカラバラナム   |
| 24 月  |                    | 休 館 日                |
| 25 火  |                    | 休 映 日                |
| 26 水  | 14:00<br>ザ・デュオ     | 18:30<br>テロリスト       |
| 27 木  | 14:00<br>おとぎ話      | 18:30<br>メロディ        |
| 28 金  |                    | 休 館 日                |
| 3/1 土 | 11:00<br>占 拠       | 15:00<br>パンティット・クイーン |
| 2 日   | 11:00<br>神の与えしもの   | 15:00<br>モノローグ       |

今回のゲストは、韓国映画界の巨匠、そして『酔画仙』でカンヌ映画祭監督賞を受賞し、いまや世界の巨匠とも言えるイム・グォンテク監督さんです。

一この『酔画仙』ですが、監督が一番伝えなかったことは、どのようなことですか。

この作品は、チャン・スンオブ先生(画号は「吾園」)の一生を描いた映画です。

チャン・スンオブ先生は、朝鮮王朝500年の長い歴史の中で三大画家のひとりと言われている素晴らしい画家です。そして、先生の一生を映画にして何を伝えなかったのかと言えば、先生の生き様ですね。1897年に52歳で突然行方不明になってしまうのですが、それまで、絵の才能が衰えることなく、小さな達成に満足せず甘んじることなく、常に高みを目指して精進し努力を惜しまなかった。その画家としての姿が非常に美しいと考え、映画にした訳です。

監督として、先生の人生と描かれた絵を映画におさめたのですが、私自身も一枚の東洋画を描くような、そういう気持ちでした。

一製作で一番苦労されたことは？

前作の『春香伝』の時は、パンソリのリズムと映像のリズムをどう調和させるかが大変でした。今



「酔画仙」

回の『酔画仙』は、私自身が絵についてそんなに詳しく知っている訳ではないので、多くの画家達の積極的な支援を受けて撮ったのですが、とにかく絵を理解することが大変でした。

昔は、韓国では中国画が流行っていたのですが、先生の絵はその境地を越えて韓国の人々の情緒、感情の流れを描く作品に変わっていったんですね。私は画家でないのに、先生がいつからその境界線を越えたのか。詳しく説明すると、技術的な部分になりますが、その筆使いとかを理解する必要がありました。こういったことは、絵の世界に深く入り込んでいないと難しいですね。

他に、18世紀という時代を再現していくことも、大変な苦労でした。

一監督の作品は、韓国の人々や文化を感じさせる重厚な作品が多く、チャン・スンオブ先生とも通じるところがありますね。ところで、カンヌ映画祭監督賞受賞後の次回作が楽しみです。

次回作は、来年ぐらいにスタートする予定はあるのですが、まだ「これを撮りますよ」と確実にお話しできるほどまとまっています。言えることは、作品によって時代背景は変わっても、常に、韓国の人々の生き様、個性ある文化を描きたいと考えています。

一最後に何かメッセージがあれば。

私の映画を、福岡市の図書館が保存していることを嬉しく思っています。『曼陀羅』(1981)などは、韓国でもプリントが無く、福岡市のプリントが唯一かもしれません。

一巨匠の作品を保存できることは、光栄です。ありがとうございました。

## インフォメーション

### 各団体の自主上映

2月2日(日)11:00/13:10/15:20  
「紅いコーリャン」(監督:チャン・イーモウ)  
観覧料/前売り:1,200円  
(当日:1,400円、シニア:1,000円)  
主 催/福岡映画サークル協議会  
(Tel. 092-781-2817)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

### ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8・DV)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用はアナログ3時間迄、ノンリニア4時間迄)  
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで



### シネラニュース送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしておりますが、ひと月分の3月号を残すのみとなりました。引き続き平成15年4月号～平成16年3月号までの購読を希望される方は、郵便切手(90円×12ヵ月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。継続のお申し込みをお待ちしております。

宛先:〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1  
福岡市総合図書館・映像資料課



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分  
西鉄バス: 天神～都市高速経由～福岡タワー南口  
(所要時間 昼間で約20分)  
博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口  
(所要時間 昼間で約25分)  
福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください



### 編集雑記

インド映画と言えば、きらびやかな衣装と魅力的な女優さん、にぎやかな音楽が思い浮かびます。今回の特集はそういった娯楽映画は勿論、社会派の映画もラインアップしています。また、前半のマレーシア映画特集もどうぞご覧ください。(H.M)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là  
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>